

ほとけの混和会だより

平成二十七年三月
東光院
仏の混和会
第110号

怨みに報いるに、
徳を持って報いる



「怨みをもって怨みに報ゆれば、
怨みは止まず。
徳をもって怨みに報ゆれば、
怨みはすなわち尽く」
最澄様の御遺戒より

浄土宗の開祖「法然」、幼名「勢至丸」九歳の時、この地方の庄園を管理する明石定明の夜襲を受け、勢至丸の父、時国は致命傷を負います。
勢至丸は、瀕死の父の枕もとで「お父様の仇討ちを必ずはたします」と、無念をはらす誓いを伝えます。しかし父、時国は「そのような事は忘れなさい」

「報復の連鎖を断ち切る」
旧約聖書とコーランの教えには、「目には目を、歯には歯を」と言う「同害復讐法」と言うものが有るそうです。
昨今の永遠と泥沼化するイスラムの報復合戦は、この教えから来ているのかも知れません。
日本の国は「怨み心で怨みは解けぬ」と言う教えが、長い年月を経て、この穏やかな人格と国が築かれて来たように思われます。
怨みを捨てると言う事は、とても辛く、大きな勇気が必要です。
この大きな包容力が抱けるよう共に努めて参りたいと存じます。合掌

ともいきの輪

No. 4



おそばと共に17年
宮崎 洋さん

三百六十坪の農地に初めて、おそばを栽培したのは、平成十年の八月下旬それから何と十七年もの歳月が過ぎておりました。
当初、宮崎洋さんと数人の仲間です。そばの栽培知識も経験も無く、手探り状態のスタートでした。
初年度は、種の分量を多く蒔きすぎて、そばの茎が、ひよろひよろともやし状態で、収穫量は、さほど有りませんでした。
収量は少なくても、初めてのおそば、何とか食べてみようと思ひ、唯一そば打ちの経験者である、岩井さんのおばあちゃんに手ほどきを頂きなが

ら、宮崎洋さんが、水道パイプでおそばを打ってくれたのです。
それが何とも美味しかったのです。
そこで来年は、皆さんにも食べてもらおう、などとみんなの意思がまとまり、翌年もおそばを栽培することとなりました。
二年目の平成十一年はそこそこ収穫量もあったので、平成十二年より節分や花祭りに皆さんにご接待させて頂く事と成ったのです。
そこで、本格的にそば打ちの指導を受けようと思ひ、宮崎洋さんと私、二人で恐る恐る、おそば屋さんの門を叩いてみました。
すると快く承諾して下さい、四回ほど通わせて頂きました。
以後十六年、毎年二月の節分と、四月の釈尊の誕生会、それに暮れの大掃除、年に三回、東光院境内の外れにある、そば小屋にて参拝者や、ご奉仕に来て下さった皆さんにおそばを打って下さっているのです。誠に有難いことと存じます。
少々お酒が入ると、陽気になる洋さん、その飾らない人柄からか、しだいに、そばを打ちの仲間も増えて、今は、節分も花祭りも、全て宮崎洋さんと、その仲間の皆さんがまかなくて下さって居るのです。
表に出ること無く、影で、そっと徳を積む行為、とてもすばらしい事と存じます。長年のご苦労、心より御礼申し上げます。

ねーねーお坊さん、
仏教には宗教戦争と
言うような事は
起きないのですか、異教徒と、
どのように交わっているのですか？

そうじゃない
昔から多少の
小競り合いは多々
あったのじゃが

真の信仰心とか、仏心を求める
心が抱ければ、宗教戦争と言う事
には、ならないのじゃよ。
それはね、真理を会得された
釈尊の御心と、仏教の教えの本質
によって、宗教戦争は発生しないの
じゃよ。

先ず、釈尊の御心というのは、
釈尊がブツダと成った時代に、
バラモンと言う教団がすでに存在
していたのじゃが、釈尊はバラモン
の教えを非難することなく、
素晴らしい所を受け入れ融合し、
ブツダの境地の会得を深められて
行ったのじゃよ。
その、寛容なブツダの教えは中国
に渡り、中国孔子の儒教と融合し
中国独自の仏教が作り出されて
行ったのじゃ。回忌法要は仏教と
儒教が融合された教えなんじゃ。
そして、その中国で確立された
仏教は、聖徳太子の時代に日本に
伝来し多少の争いはあったものの、
日本古来より伝わる神々と融合
した「神仏混淆」と言う日本独自の
仏教が確立されて行くのじゃよ。



春彼岸法要のご案内

3月21日(土曜日)

平成霊園 午前11時より
東光院本堂 午後1時より

詳細は、お電話してください。
電話0476-46-2471
FAX0476-46-2545

お釈迦様の誕生会

《はなまつり》

4月12日(日曜)

午前10時30分～午後2時頃まで
ともに、だれかを幸せにしてみよう。



今年も
ふくちゃんて
先生が来て
くれます。



「へー、ブツダの教えは、
ずいぶん心が広いので
すね、それでは、お坊さんは、
昨今のテロ行為を許せるのですか？」

自爆テロなど、これは、
当然許される行為で
は無いよ。しかし
報復合戦をしていたら、憎しみは
益々肥大して行き、そして特定の
宗教の国を造る為と言う大義の旗
印を政治的に利用した侵略戦争に
成りかねないと思うのじゃよ。
憎しみ合っているも何一つ問題は
解決しないと思うのじゃが、残念な
事に、私には祈ることしか出来ない
のじゃよ。どうか「怨み憎しみを捨
てて許し合い、共に他の幸を願う
大きな勇気が得られますように、
そしてこの祈りの輪が世界中に広
がって行きますように」
心よりお祈り申し上げます。

